

第64期 株主通信

平成29年4月1日 ▶ 平成30年3月31日

サトー 佐藤食品工業株式会社

証券コード：2814

株主の皆様へ

平素は、格別のご高配を賜り、厚くお礼申しあげます。
ここに、当社第64期（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）の事業の概況をご報告申しあげます。

平成30年6月

代表取締役会長兼社長 佐藤 仁一

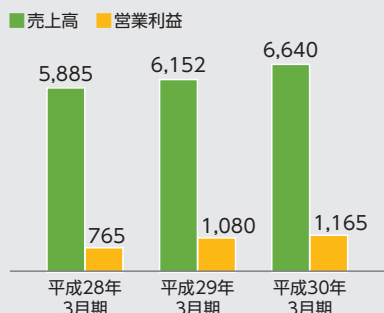
業績ハイライト

当社WEBサイトでは、決算短信や有価証券報告書など、詳細な財務情報を提供しております。

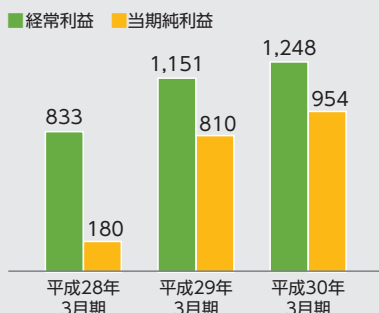
佐藤食品 IR

検索

売上高／営業利益（単位：百万円）

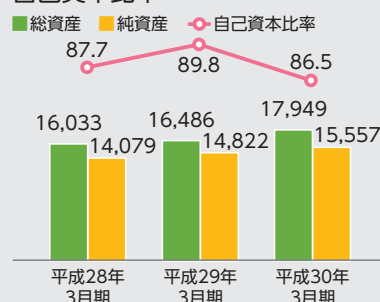


経常利益／当期純利益（単位：百万円）



総資産／純資産（単位：百万円）

自己資本比率（単位：%）



役員一覧（平成30年6月26日現在）

代表取締役会長兼社長	佐藤 仁一
代表取締役専務	清水 邦雄
取締役	鈴木 宗行
取締役	川出 明史
取締役	上田 正博
取締役	長谷川 憲治
取締役（社外）	秦 博文
監査役	垣見 泰年
監査役（社外）	串田 正克
監査役（社外）	稲石 純二

会社概要（平成30年3月31日現在）

本社	愛知県小牧市堀の内四丁目154番地
設立	1954年10月
資本金	36億7,227万5千円
従業員	169名
工場	本社工場 愛知県小牧市 第二工場 愛知県小牧市 第三工場 愛知県春日井市

株式の状況（平成30年3月31日現在）

発行可能株式の総数	27,000,000株
発行済株式の総数	6,246,516株 (自己株式3,079,944株を除く)
株主数	1,249名

株主優待制度のご案内

対象	毎年3月31日現在の株主名簿に記載された500株以上の株式を保有される株主様
優待内容	500株～999株 1,000円相当の当社製品（茶エキスパウダー） 1,000株以上 3,000円相当の当社製品（茶エキスパウダー）
発送時期	毎年6月を予定しております

佐藤食品の茶エキスパウダー

当社の茶エキスパウダーは、水に溶かすだけで、誰でも簡単に本格的なお茶をつくることができます。冷水にもお湯にもサッと溶けるので、大変便利です。おいしさはもちろん、持ち運びも簡単で茶殻が出ない等、様々な特徴を有しております。是非この機会にご賞味ください。

【写真は 3,000円相当の当社製品（茶エキスパウダー）】



単元未満株式の買増・買取制度について

口座のある証券会社へお申し出ください。特別口座を開設されている株主様は、口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社（TEL 0120-782-031）までお申し出ください。



サトーは、独自の「粉末化」技術で 天然食品の可能性を追求し、グローバルワンを目指します

製品分野のご紹介



茶エキス ● 売上高: 3,514百万円

緑茶、ほうじ茶、紅茶、烏龍茶、麦茶、玄米茶、抹茶、ジャスミン茶、ルイボス茶等

お茶本来の風味を余す所なく粉末化

用途 インスタント茶、給茶機・カップ式自動販売機、製菓、健康食品 など



天然調味料 ● 売上高: 2,416百万円

鰹節エキス、昆布エキス、椎茸エキス、酢、醤油、魚介エキス（鮭、エビ、真鯛）等
※粉末調味料と液体調味料を合算して表示しております。

天然素材の豊かな味と香りを閉じ込めました

用途 つゆ、たれ、スープ、ドレッシング、製菓、プレミックス など



植物エキス ● 売上高: 584百万円

イチゴ、レモン、巨峰、りんご、バナナ、オレンジ、ブルーベリー、栗、ゆず、ネギ、生姜等

果実や野菜のフレッシュな風味をそのまま粉末化

用途 製菓、健康食品、粉末飲料 など



粉末酒 ● 売上高: 119百万円

赤ワイン、白ワイン、清酒、ブランデー、ラム、みりん等

世界主要17カ国で製法特許を取得! 当社の名を
世界に広めたオンリーワン技術です

用途 製菓、プレミックス、スープ など

当期の概況

当事業年度における我が国経済は、人手不足の顕在化や海外情勢の不確実性の高まりなどによる先行き不透明な状況が継続しているものの、好調な企業収益を背景に緩やかな回復基調が続きました。

当食品業界につきましては、少子高齢化や人口減少に伴い国内市場が縮小する中、原材料費の高騰や動力費や物流コストの上昇、さらにはフードディフェンスを含めたさらなる品質や安全性に対する要求に応えるための取り組みにより、コストが増加傾向にあります。

このような状況のもと、当社は多様化する消費者ニーズに対応すべく「茶エキス」、「天然調味料」、「植物エキス」の製品開発ならびに用途開発に注力してまいりました。

当事業年度における売上高は、茶エキスにつきましては、飲料市場において、緑茶や麦茶・ほうじ茶の需要が強含んで推移した結果、ウーロン茶エキスが減少したものの、緑茶エキス・ほうじ茶エキス等が増加したため、売上高は3,514百万円（対前年同期比14.0%増）となりました。

粉末天然調味料につきましては、呈味力真鯛エキスなどの新商品を投入した結果、粉末椎茸・粉末酢等が減少したものの、粉末魚介・粉末鰹節等が増加したため、売上高は1,706百万円（同2.9%増）となりました。

液体天然調味料につきましては、新商品として鰹節エキスを投入したものの、椎茸エキスが増加したほか、昆布エキス・鰹節エキス等が減少したため、売上高は709百万円（同3.7%減）となりました。

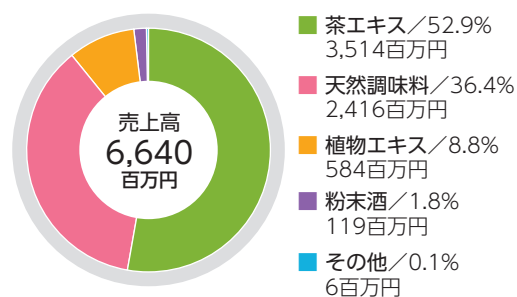
植物エキスにつきましては、洋和菓子・デザート類市場において、果実エキスの需要が強含んで推移した結果、野菜エキスが減少したものの、機能性植物エキス・果実エキスが増加したため、売上高は584百万円（同11.3%増）となりました。

粉末酒につきましては、清酒タイプ・ブランデータイプ等が減少したため、売上高は119百万円（同16.8%減）となりました。

以上の結果、当事業年度における売上高は6,640百万円（同7.9%増）となりました。

損益面につきましては、売上高の増加により営業利益は1,165百万円（同7.9%増）、受取配当金61百万円（同8.2%増）を計上したため、経常利益は1,248百万円（同8.5%増）となりました。また、投資有価証券売却益95百万円を計上し、当期純利益は954百万円（同17.8%増）となりました。

売上高構成比



中長期の取り組み

特に下記の3点を重点課題として取り組んでおります。

① 安全・安心な製品の提供

品質保証プロセスにおけるITシステムを活用した業務改善。

② 生産性の向上及び合理化

原材料コスト変動リスク等に対処した、利益を生み出しやすい生産体制づくり。

③ 高付加価値製品の開発

製販一体となって、顧客ニーズの開拓、それにすばやく応えることができる体制づくり。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。